

暴走する果樹カメムシ

—果樹を加害するカメムシと、その天敵卵寄生蜂—

外山 晶敏 氏

(果樹研究所 ブドウ・カキ研究領域)

日時：2013 年 6 月 6 日 (木) 17:00～18:30 頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0307 教室

果樹を加害する『果樹カメムシ類』は、発生予察（いつ、どのくらい発生するか予測すること）が難しい害虫として、生産現場で大きな問題となっています。多くの研究者による精力的な研究によって、近年は彼らの生活史や生態の特徴と被害実態、さらには様々な天敵の存在など、多くの知見が明らかになってきました。

果樹カメムシ類の代表であるチャバネアオカメムシ（以下、カメムシ）は、天敵である卵寄生蜂に寄生されます。寄生する卵寄生蜂の種類を調べると、チャバネクロタマゴバチ（以下、タマゴバチ）が重要であることが分かりましたが、カメムシは多発して果樹を加害してしまいます。何故、天敵であるタマゴバチはカメムシの暴走を許してしまうのでしょうか？今回の講演では、そのメカニズムに迫って頂きます。是非、奮ってご参加下さい。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室 糸山 享

(5号館 208、内線 7810)